

9
3
水
1

塘河之水春郊

題目錄

元日

子日

荔枝

霞

梅花

春水

仙別

善友

柳

木芽

花

楊

三月三日

付桃 草餅

鷓鴣 離道

雲雀



燕

孫

蛙

春約

莖

春草

春月

蓀

藤藪

雜春

垢河之水卷一

春部

芦月庵似船撰

元日

○玉燭寶典云正月一日為三元之日歲之元時之元日之元又正月曰端月也其丁日為元日正朝亦云三元亦云三朔矣○書言故事云正月朔日謂之元日丁歲之上日也

寛文七年丁未春

似空軒安靜

前漢武帝本紀云元封元年正月登嵩高御史乘屬在廟傍吏卒咸聞呼萬歲者三矣紀事物原

○拾遺集賀正詩云三登乃仲華法師○詞源集二月後代と三登乃やまあり

あゝと家やちるらん 忠見

あ水やをさるご 取續 川水雲

速水 思月

○公事招福と云ふがごとくすそを年法生氣乃方の弁と然
ト云ふこととして人よくせむき目と云ふ司内裏りた
てしつねに物餉もくもくとして一先ひるりあつむるもくもく目
あはをまよひをあはとヤウやま○江次第云舊年封御生
氣方今家井一名用之後廢而不用之即御厨子所付臺
盤所女房供之於朝餉矣

たづくや常世成るる 志のあ

談夢

とて世を常世と云ふこと○袖中抄卷五云蓬萊山日本紀
○日本紀云天照太神誨倭姬命云是神風伊勢國則
常世之浪重浪歸國也傍國可憐國也欲居是國矣

あ水や何まがのしきぶうあかご

岡本

千之

門乃雲圓標乃床とあすむらん

似船

えりもとのほがも乃あひら那

吉田

圓木

とあせま粒粒一海のそつちやり

同人妻

ひさ

門松りあろあろあふみ揚の那

松髯

伏見田井風何ぞあらんあつりり

山中

玩竹

○名号三あつりりあつりりあつりりあつりりあつりりあつりり
あつりりあつりり 先後

たかづい乃宇宙はくせむひのぬ

嘯琴

○新古今集「おぼろくさかほ乃よむひよむらうんはくくさり
もろくぬまのむら月 定家

たかきく函乃あわた都乃那

似船

しつ羽言とつをえ極兒乃鬘乃那

松浦 流螢

雲言紅雪云言と仙境よあふ言さり○漢武内傳云仙
家藥有玄霜絳雪云云

おわづくとさうろゆおむりお

似船

まほづんり梅ひくささり初目記

若州小濱津田 去留

鳴羽女神國同

天照太神ハ他神五代乃中第一の神なり又母ハ天神七代乃
終り伊弉諾伊弉册よりさうろふ二神あまのさうろこを
きて天女下よふさうろくささり探りあまの絳乃滴さうろり
て高とさうろくささり乃流流こほさり二神この流おろろりさ
大八洲乃國と生終の次よ一女三男と生終ハ天照太神日神
月讀命神蛭兒素戔嗚尊とさうろ天照太神ハ天トと儀
終ハ月讀命にそ天とゆづりあまのさうろあ乃さうろハ振れぬを
ゆづりあまの蛭兒ゆづり海流ゆづり終ハけ極思をさうろさうろひて
とさうろさうろあまのさうろで脚もらたさうろさうろあまの磐椽樟
船乃のせと流さうろハ振律國とさうろさうろあまの西宮とさうろさ
○日本紀云伊弉諾尊伊弉册尊共生日神號大日靈
貴云云大此子光華明彩照徹於六合之内故二神喜

啓門一松傳一母

安藝廣島住 佐伯氏 重規

家く乃住居うつろく乃ま 越後新野住 孔雀軒一醉

目れえ 雲くく海もふきう那 同

仙人の基すうこつもの春 安藝國のほう海 宥善

○遊仙窟云五嫂云向來漸漸入深也即索碁局共少
府賭酒下官得勝五嫂云圍碁出於智慧張即亦復太
能畧○列仙傳卷四云王質晉衢州人入山伐木至石
室山見石室中有數童子圍碁下畧けほの仙翁乃碁うら
ふる事ね多ゆるべんどもうひる石及

年乃年々

本國の善代はもせむもの

松前住を見氏 笑計

えりや常るふ人を ねれむ 伊勢四日市住 春龍軒 雪洞

○事文類聚後集卷四十云楊朱之弟曰布衣素衣出
天雨解素衣衣黑衣而返其狗卻而吠之楊布怒將扑
狗楊朱曰子無朴矣子亦猶是也嚮者彼汝狗白而往
黑而來豈能無怪哉矣 列子 けいけい海をさうくやあらん

とどろくしん 極成をくく扇うか 似船

○拾遺集卷八云菅原右大臣のうりーゆりうろくあそくの
うしゆさうふえく乃月の極もねあさうりあめ風と
あうあてう那

子目

○宮事招湯と昔人と野多ふ出とみ日とて
 て招湯ひきくうり。朱雀院園齋院三齋院を
 乃津町ととげまじき何りくうにや申すも齋院の
 子目と抄多しううの寛平元年二月十三日此事あり
 みら乃程は車きり。ガ。營野ちうくなりて。よ白
 けさよめさねくうり。左乃大臣以下皆直衣とて。蓋上
 人を布衣ぬり。幄乃座とまうを慢と引めくうり。
 小庭とあり。こ小庭はひりとう會くまうりき。
 ○袋系紙云。結室又其子信と云。先自入道式部
 乃は子目よ。其子信はく。其基回之。必行。結室云。
 「子乃抄中。其のまじく。松とく。まうり。其よ。ひりき。
 其代や。ぬん。世はく。回と結と。と。其基暫く。詠吟
 しく。あ。く。う。ま。う。枕と。とり。結室と。打て。ま。う。魚の
 たり。昇殿。く。帝。乃。は。子。目。あ。る。時。は。う。う。ま。あ。ま。を

以く極とて。や。り。さ。り。ひ。乃。不。完。人。所。上。と。私云。し。尋。拾。遺。集。二。見。

○錦繡萬花谷云。正月七日登岳遠望四方得陰陽靜氣除煩惱之術也矣

さかひめ乃とらあてふ松の玉首うめ

多列 去留

貞徳とさかひ姫と申す。まは花とつらりあさう。造化乃神
 たり。秋乃紅葉とほり物と。能回姫とらう。く。なり。赤
 紙もさ。く。を。あ。さ。け。ま。く。も。秋。の。葉。は。ら。う。う。も。極。也。

若菜

若菜よとたう。名。の。い。ま。る。野。標。之。野。
 生田小野。若菜。桑極野。山城。標。之。野。以上大和。

○荆楚歲時記云。正月七日俗以七種菜作羹食之。人無萬病矣。
 若菜七種乃物。あり。河海抄。若菜。薑。薑。芥。菁。形。
 酒々代。佛産。同之。公事根原。○正月七日と人自さく。

○徳目物種云々をつくまぬ流と云うたつるまぬいふ也
○標標 標の如く流と云ふり標と云ふりなわといふり○第百
了の水應衝石と書り○袖中抄云國史より難波津より始と云
標標と云ふ

志を成さしむる女牛の那 藝州廣島壽養軒 應昌

好くさねとてはつるあつた いせ四日市森本氏 可習

梅花 好文本 梅を好ふ本といふ故事の晋起居注ニアリ 晋武好文則梅開廢學則梅不開云云○梅花

中儒者といふ事翰墨全書羅江東の梅賦ニ出たり
香をぬ見よ美なり白草の香は茶の香をぬ見
○梅の海と云ふの 暗部山 巖跡見思 國所 志考 白河川 肥前 難波津 善自燈 志考

○新小不流名也 哲教寺未開紅梅いすご雲うさう
時どおと基多紅なり世人未開紅を梅と云ふりとい
又梅乃男女縁り集りて新と云ふと梅と云ふをいふ

美香を燭の如く梅乃ああ 鳳池軒 枕流

○李太白春夜宴桃李園序云浮生若夢為歡幾何古
人秉燭夜遊良有以也 矣 げと梅と云ふて作れり

香の流と云ふ 藝州いほくま 柳六

○白雲卷云 袖にけ梅乃香をまきぬ乃雲の如くぬれに
ひふ人かやく 然れ香ぬぬ 香をまきぬ乃雲の如くぬれに
かよふと云ふ 追風と云ふ 梅乃香をまきぬ乃雲の如くぬれに
くあやと云ふ 人乃香をまきぬ乃雲の如くぬれに 其那にま
なんともいふと云ふ 梅乃香をまきぬ乃雲の如くぬれに

乃すぐれううけいさあけひのり乃くくさくさありて
 いふれおまへ乃お裁うしきまを木の花実とありて下略
 けくはとあまうくくさくはなるべし

さげ髪乃絲ぐんる代より梅乃花 朱雀ひ女 名積

春水

○五形圖

初雪 五旬・春水 夏末 七夕 雪二旬
 箕雪 三旬・柳 夏草 秋田
 吉房二旬・納涼 夕立 ○發句ノ季不同故不一列
 題ノ所々ヲ見合テマレ

○五輪九字明祕密釋云一切衆生色心實相無始本際毘盧遮那平等智身色者色蘊開爲五輪心者識大合爲四蘊是則六大法身法界體性智五輪各具衆德故名爲輪體相廣大稱爲大名五佛自覺覺他故名爲

佛五智簡擇決斷故名爲智色者不離心五大即五智心者不離色五智即五輪色即是空萬法即五智空即是色五智即萬法色心不二故五大即五藏也五智即五智也圖云



肝藏主眼 阿頼耶識 大圓鏡智 寶幢佛
 阿闍梨師 發菩提心 東木 春青

肺藏主鼻 意識 妙觀察智 轉法輪智 無量壽
 證菩提果 西 金 秋 白

心藏主舌 未那識 平等性智 華開敷 寶生
 多寶 行菩提行 南 火 夏 赤



腎藏主耳

五識成所作智

不空成就

釋迦

天鼓音

入涅槃理

北方

冬 黑

脾藏主口

奄摩羅識

毘盧遮那佛

法界體性智

具足方便

中央

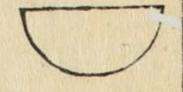
土用

黃

已上善無畏三藏傳矣 上下畧



右五輪の事。俱舍論毘婆沙論の意。人面已。胎肉小や。と。初七日。赤白。淨。濁。と。より。乃至。五輪の形。と。出来。地。水。火。風。空。と。あり。と。不。痛。の。形。と。似。たり。胎。肉。は。と。成人。の。形。と。と。頭。の。圓。と。と。天。の。空。と。と。空。の。形。と。と。是。乃。方。と。と。地。を。表。と。と。水。火。乃。相。なり。と。



五形圖

半分をひく。あふ桶乃。少の那

西四日市住 大田氏 寄焉

仏別

○教皇釋迦如来拘尸那城跋提河邊娑羅林乃中。二月十五日。七寶乃床に於て。惠目かられ。あふ。仏乃。あふ。と。二月乃。あふ。と。連。号。に。は。く。と。ま。ゆる。○長阿含經云。爾時。世尊。入。拘尸那城。向。本。生。處。末。羅。雙。樹。間。告。阿。難。曰。為。如。來。於。雙。樹。間。敷。置。牀。座。使。頭。北。背。面。向。西。方。所。以。然。者。吾。法。流。布。當。久。住。北。方。矣。

涅槃乃。目。さ。れ。よ。何。と。と。禱。の。事

たあ。と。ま。山。寺。田 孝信

さ。れ。よ。の。事。○あ。ま。下。ま。拍。木。亭。小。武。と。う。く。人。乃。う。と。

布留山 三台 三諸山 三橋山 珠城宮 奈良郡 以上大和名所

白雲山 常陸 手向山 大和又近江 白河山城 大内山 やましろ

大系山 やましろ 小湊山 日 鹿山 日 龜山 日 内野山 日 内野山 日

くくぬ山 日 小野山 日 多羽山 日 深草山 日 交野 河内

信太森 聚 あまの 山 勢 さびさ 河内 芦屋里 持列

探井里 山 嶽 むら 森 日 二村山 三河 富士 駿河 甲斐 持列

美奈津川 堂 陸 純波山 日 あつさ 日 近江 石山 日 團山 日

滋賀浦 野 長草山 日 三井山 日 比良山 日 白河守 奥列

奈古山 奥列 赤松山 日 久知川 日 向世 吉野 那智山 奥列

くまの山 日 紀伊 糸鹿山 日 三浦 播列 奥津 流山 あま

因幡山 八重抄抄并三能重抄三美濃トアリ清浦抄三因列ト云

長恩里 山城 橋本池 下 落 ともせ川 山城 雲林 日 花山 日

柘尾山 やましろ 五好山 日 磐船 森 やま 雲谷 春院 やましろ

持也山 甲列 茂庫山 持列 天河 河内 次廣浦 持列 三好山 相模

依 カ 毎 ア 猪 シ 上 ア 戸 シ 總 シ 山 常陸 以上題林抄三出

○今洛陽より花のよきものありて東山八坂御被園 是感神院

○玉葉集神祇一巻のよきものありて乃攝花をさるを植をく

人乃男もさる人ん 是を被園のよきもの人乃

○清水 寺山 三城ヨリ一里をり巽方

○新花二月乃をともあらしのよきものほむは路は跡をふ

○東山吉水院 知恩教院と早くと浄宗教院あり

吉水を園山乃下にありげゆまたありていしを吉

ふとちゆりていしを吉ふとちゆりていしを吉

ふとちゆりていしを吉ふとちゆりていしを吉

ふとちゆりていしを吉ふとちゆりていしを吉

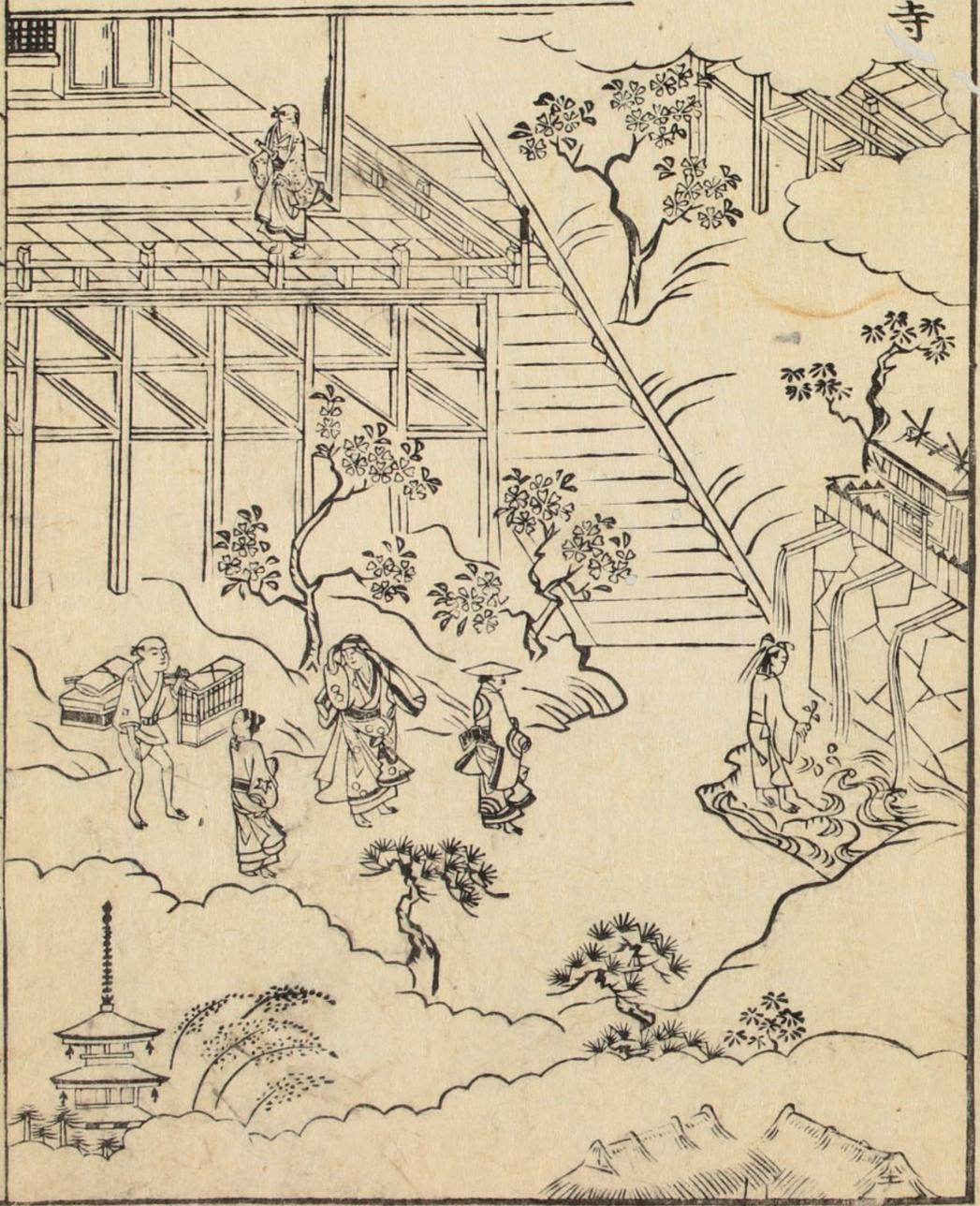
ふとちゆりていしを吉ふとちゆりていしを吉

〇仁和寺 けしや上妙心寺の西時路の東也。寛平は皇
 の御居家乃跡をうけつるゆへに御家と申ゆるは寺乃
 花の心よりそとらるるに清乃乃ちりるは清の
 振を申すなり世の人清は清と申すは清の
 花の心よりそとらるるに清乃乃ちりるは清の
 振を申すなり世の人清は清と申すは清の
 振を申すなり世の人清は清と申すは清の

〇金華集云 清河院の清河上人あまごころて
 花の心よりありとらるるに清乃乃ちりるは清の
 振を申すなり世の人清は清と申すは清の
 振を申すなり世の人清は清と申すは清の

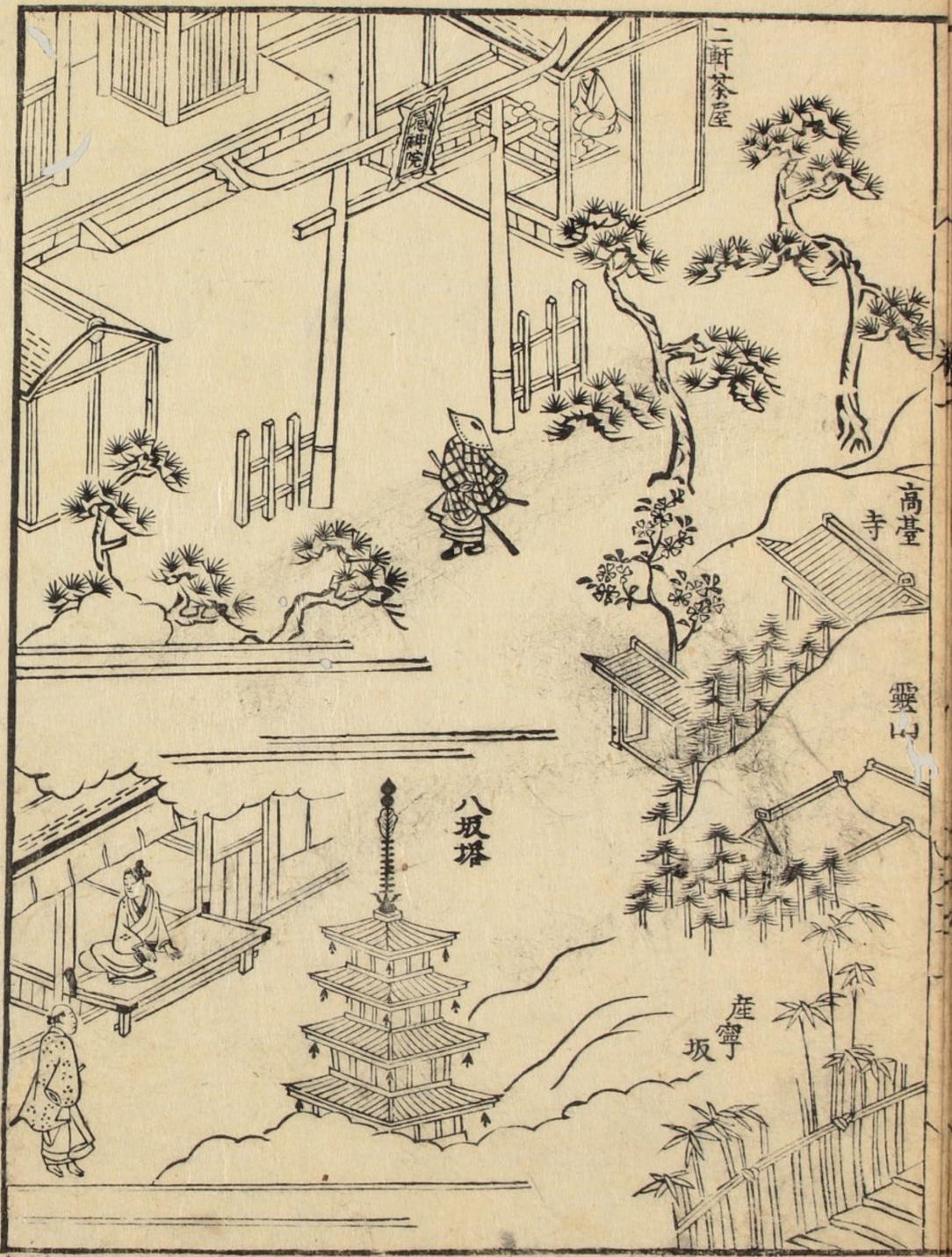
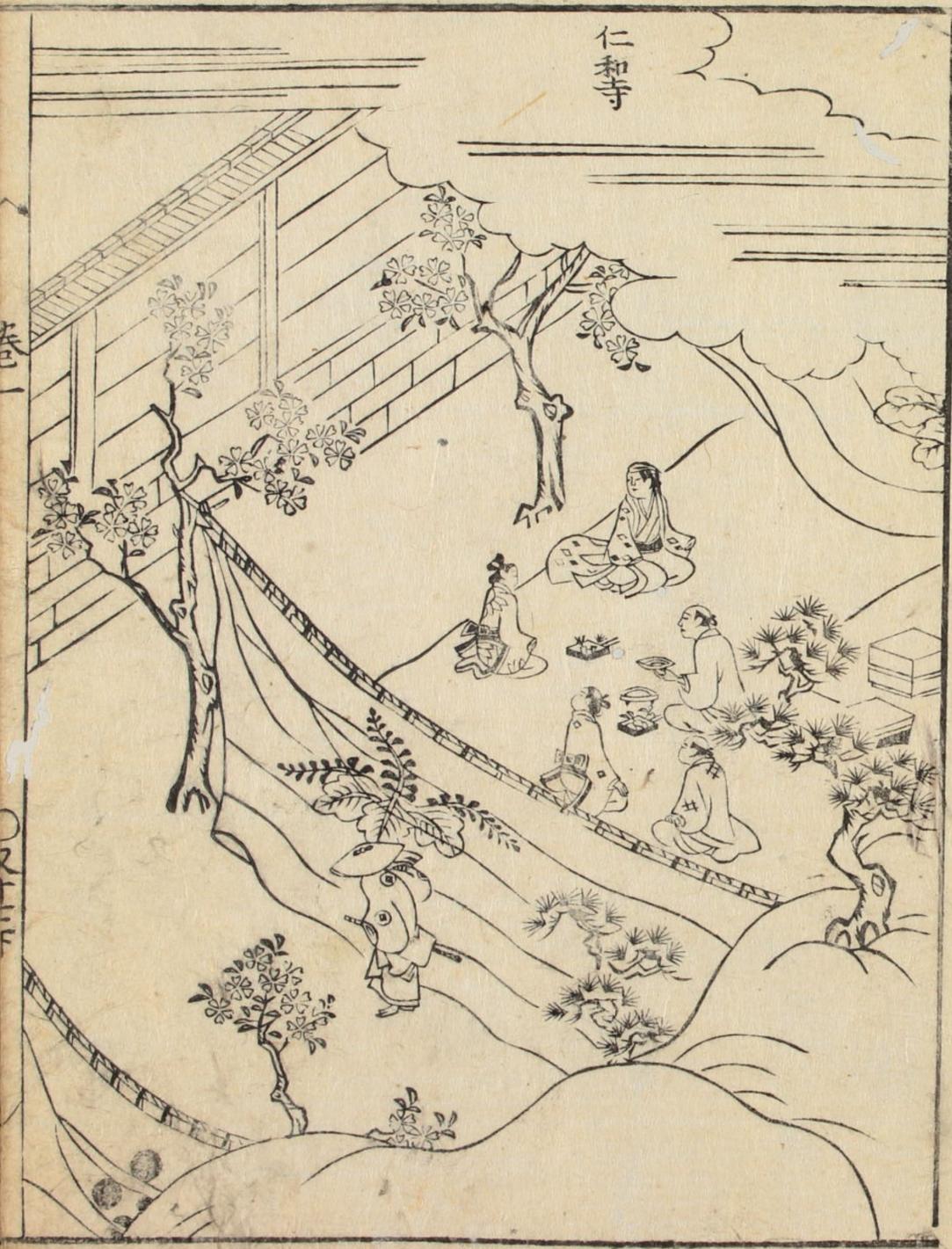
〇寂照堂谷響集云 日本櫻花為花中華如何
 答鶴林玉露云 洛陽人謂牡丹為花成都人謂
 海棠為花尊貴之矣

清水寺



卷

又十七上



續千載集雜上

百秋門院

紫の戸より花をさすもふもふも
宇治位 任世

○葛基のすしに去平津墮よりんもるは葛代水といふ書
よじも御して去付ゆるもどくあうりの略しゆる

○十番詩合云 左一番碁 右象戲

互圍王將指初辰 先突歩兵逐仲人

盤上雖無騎掛荷 角行替馬使金銀矣

待む乃やむととめくも登ヒ寝ニ可遊子

歌仙後自ふる葛基乃奇れ又又まをとりて

かどろねむるぬ世乃花や奇があら
野村氏 一通子

葛基集云 園ウチ裏乃御屏風よ十二月佛名をさる家
かどろねむるぬ世乃花や奇があら
そくく経舞

薪タケの里一休和尚のちもあそ

かきうろ上津谷 松雲

あふの花を勤乃ととりや那

○何さういつふ薪の里とて燭燭ツツキを那をりそれ里より
妙勝庵とて大徳寺南浦ナハ紹明の建ツキくわい一休よりすまら
南浦ナハとて隠カクレ遁トシ一休宗純それ花と慕慕ひ妙勝庵乃
中ナカの酬ウラナヒ恩オン庵と造りてくこくわい一休よりすまら
あふととる一休乃寺とてあふあふ一休和尚依ヨて
あふの酬ウラナヒ恩オン庵と稱ナへて妙勝庵はるすまらとて
又蓮レン寺師宗長とてこれ寺とてあふ一休よりすまら
ととるノ説ノ ○あふれとてあふ中ナカのあふも傳燈録云丹

而説法於衆生與樂矣○智度論云彼岸一日善勝餘
百日善矣○彼岸渡生从此岸到涅槃彼岸故云彼岸
矣○彼岸ヲ梵語ニ波羅蜜ト云々太論ニ阿羅蜜ト云々
又波羅伽ト云フ○解深密經ノ意ハ身財ヲ慳吝セシテ
淨戒ヲ守リ守ルカ故ニ忍辱シ懈怠ナクシテ散亂ヲ止メ出
世間ノ信惠ヲ生ズ是レ方ニ彼岸ヲ度スレト云ヘリ

南無 ちち者 妙心 ともて ね さくら ね
しせ四日市位 名針

呼はれ ともて ね 妙心 ともて ね 妙心 ともて ね
日

寺は花さくらよ

ゆきり ともて ね 妙心 ともて ね 妙心 ともて ね
日所位度民 尊也

ともて ね 妙心 ともて ね 妙心 ともて ね
藝州ひうは 重規

ともて ね 妙心 ともて ね 妙心 ともて ね
赤穂共女 〽

ともて ね 妙心 ともて ね 妙心 ともて ね
京 野水

墓の乃花はえ侍りて

ともて ね 妙心 ともて ね 妙心 ともて ね
あま乃あひら 重規

○碑ハ事物紀原云管子云無懷氏封泰山刻石紀功
秦漢以來始謂刻石曰碑蓋因喪禮豐碑之制也刻石
當以無懷爲始而名爲自秦漢也陸龜蒙叢目書曰碑
悲也古者懸而空用木以表其功德因留之不忍去碑

之名由是而得自秦漢以降生有功德政事者亦碑之
 而又易之以石失其稱矣此又德政有碑之起也云云○
 釋名曰不葬時所設臣子追述君父之功以戴其上也
 矣○晉羊祜字叔子守襄陽樂山水每風景必遊岘山
 致酒言詠終日既薨襄陽百姓築於祜岘山遊憩之所
 建碑立廟歲時享祭望其碑者莫不流涕因名爲墮淚
 碑矣胡曾詩註二見 ○輿列之壺碑壺碑とつてありてふる乃長
 安より入りたる碑なり田村將軍東夷征討のとき碑
 ありて乃西よ日本中央と書つてもありとてや
 ○心齋集云 みるはくろけくせうくせうあまのつが
 りくよきそめいそま風西乃 ○家集云 さいひりうりう
 雲霧あまのつがめりあまのつがめりあまのつがめり
 雲霧あまのつがめりあまのつがめりあまのつがめり

看せりぬき雲霧あまのつがめりあまのつがめり

的場氏 正次

あまのつがめりあまのつがめりあまのつがめり

速水氏 思月

うらむのつがめりあまのつがめりあまのつがめり

八幡山 空雲子

○うらむのつがめりあまのつがめりあまのつがめり
 くせうのつがめりあまのつがめりあまのつがめり
 ○うらむのつがめりあまのつがめりあまのつがめり
 あまのつがめりあまのつがめりあまのつがめり

看せりぬき雲霧あまのつがめりあまのつがめり

和列今井曲柳軒 森世 元隆

看せりぬき雲霧あまのつがめりあまのつがめり

わたのつがめりあまのつがめりあまのつがめり
 雲霧軒 應昌

云亦有桃源種桃者一來種桃不記春採花食實枝爲
薪兒孫生長與世隔矣○陶潛桃花源記云晉太元中
武陵人捕魚爲業緣溪行忘路之遠近忽逢桃花林夾
岸數百步中無雜樹芳花鮮美落英繽紛矣○酉陽雜
俎云王母桃洛陽華林園中有之十月始熟形如栝樓
俗語云王母桃甘桃食之解勞矣○列仙王母傳云後
漢元封元年降武帝殿王母進蟠桃七枚於帝自食其
二帝欲留枚王母云此桃非世間所有有三千年一實耳
矣事文類聚後集卷五十五見○唐會要云正觀九年十一月康國
獻金桃詔令植於苑又云康國獻黃桃大如鷲卵色如
金亦曰金桃然則唐世始傳金桃矣○寂照堂谷響集
曰日本金桃何書所載○荅梁任昉述異記云磅礴山
去扶桑五萬里日所不及其地甚寒有桃對千圍萬年
一實一說日本國有金桃其實重一斤矣○神異經云

東方有樹高五十丈葉長八尺名曰桃其子徑三尺二
寸和核煑食之令人益壽按別本壽短誤食核中仁可以治
嗽小桃溫潤嘍嗽人食之即止按別本作嘍嗽人肉滑誤矣
史亦抄くわんふん○暗邪心くわんふん○桃乃碎矣くわんふん
桃乃花くわんふん○暗邪心くわんふん○桃乃碎矣くわんふん

柳 醉 桃 之 下 戸 乃 稱 雜 乃 亦 朱 雀 爲 女 々々々

遺極軒貞德あふ○くわんふん○上戸乃稱雜乃亦朱雀爲女
たよりゆるくわんふん○上戸野極酒と飲者と大戸といひ
飲る者と小戸といひくわんふん○白氏文集くわんふん○くわんふん
上戸下戸と云齊東俗談云韻府云白樂天詩猶嫌小
戸長先醒亦曰戸大嫌甜酒才高笑小詩困唐人飲酒
多者ヲ大戸トシ小戸トス按之ニ木小戸ノ稱唐宋ノ酒

朱雀爲女

雲雀

登れ星を雀つらむりんまがめふ

たぬじ峯山寺田

孝信

あふまのの影ささひざりうら

は内小寺村桐山

豊重

まわりや牛んくまふ夕や雀

たぬじ峯山

玄信

○廓庵和尚十牛圖云茫茫撥草公追尋水闕山遙路更渡力盡神疲無處覓但聞楓樹晚蟬吟

○面紅の似るくまわむと隣りわさつあ

○玉島集云 ばあね持取あよふ百集あ合いゆるに雀とよらんゆるく 来んよんあふさうらまじさひざり

たぐのまむらぐれ

あはらの形をんぬじざりうら

冒市廣田

州也

○六百番歌合三十一すまろく麻と雀乃あぐらぐれ

○孝信集 雲をくまむらぐれとてあむらぐら

○雲載書多し 松枕物語におもはれ

くまわむらぐれとてあむらぐれとてあむらぐれ

あはらの形をんぬじざりうら

雲雀

○まおお二二月のまふなることありやよとやくもまけお
ほくらくめり那る家

蝶

蛺蝶一名野鷲一名風蝶江東ニ謂之捷末色白
脊青者是也其大サ如蝙蝠或ハ黒色或ハ青斑ヲ

名テ鳳子ト云フ一名鳳車一名魁車ト云江南橘樹ノ

間ニ生スル者也矣今註 ○酉陽雜俎云百合花合

泥其隙經宿化爲大蝴蝶矣或ハ麥腐テ蛺蝶ト成ル

也つるを古今往乃從るりそあや草木乃花葉變
化して蝶とまるとして宛又あつたといふゆへに

○莊周夢爲蝴蝶とハ莊子齊物篇にいつたこと後世

○又依國といふ者花とあつて蝶とありたる相なりき

長ゆゑ心集まかりてはつとを統り○あつて人畜家もの乃

八種といふ事よまよひてつるふのつるりつるりとい

人乃あつてつるりつるりつるりつるりつるりつるりつるり

見れどもあぢとさるるもいふおまもいふもいふもいふもいふも
かり金のかまへをさるるもいふもいふもいふもいふもいふも
花おとつるもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふも
さあぐなる蝶といふもいふもいふもいふもいふもいふもいふも
がくさるるもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふも
乃いふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふも
まろく極してはるりつるりつるりつるりつるりつるりつるり
蝶生のみもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふも
真しくおまもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふも
こまろくもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふも
何んぞいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふも
作りもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふも
なりらんといふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふも
ありてはるりつるりつるりつるりつるりつるりつるりつるりつるり

倒若乃... 四道

○郭后拾遺集云... 永仁六年十月龜山... 左大

○論衡云... 水者地之血脉... 氣進退率未之盡大抵天

包水承地而一元之氣升降於太虛之中氣升地沈

水溢而為潮氣降地沈水縮而為汐矣

○初汐之八月十五日... 吳主乃長下... 子胥

○方輿勝覽云... 吳主既賜子胥

○薩天錫集海潮詩云

靈胥怒闢海門開... 龍捲天河銀浪決

鰲翻坤軸玉山摧... 千里奔雷撼地來

欲駕雲帆滄海去... 秋風八月上蓬萊矣

○古今集錄別... 海乃さねが流くへゆあそんてゆり

○古今集錄別... 海乃さねが流くへゆあそんてゆり

○古今集錄別... 海乃さねが流くへゆあそんてゆり

○古今集錄別... 海乃さねが流くへゆあそんてゆり

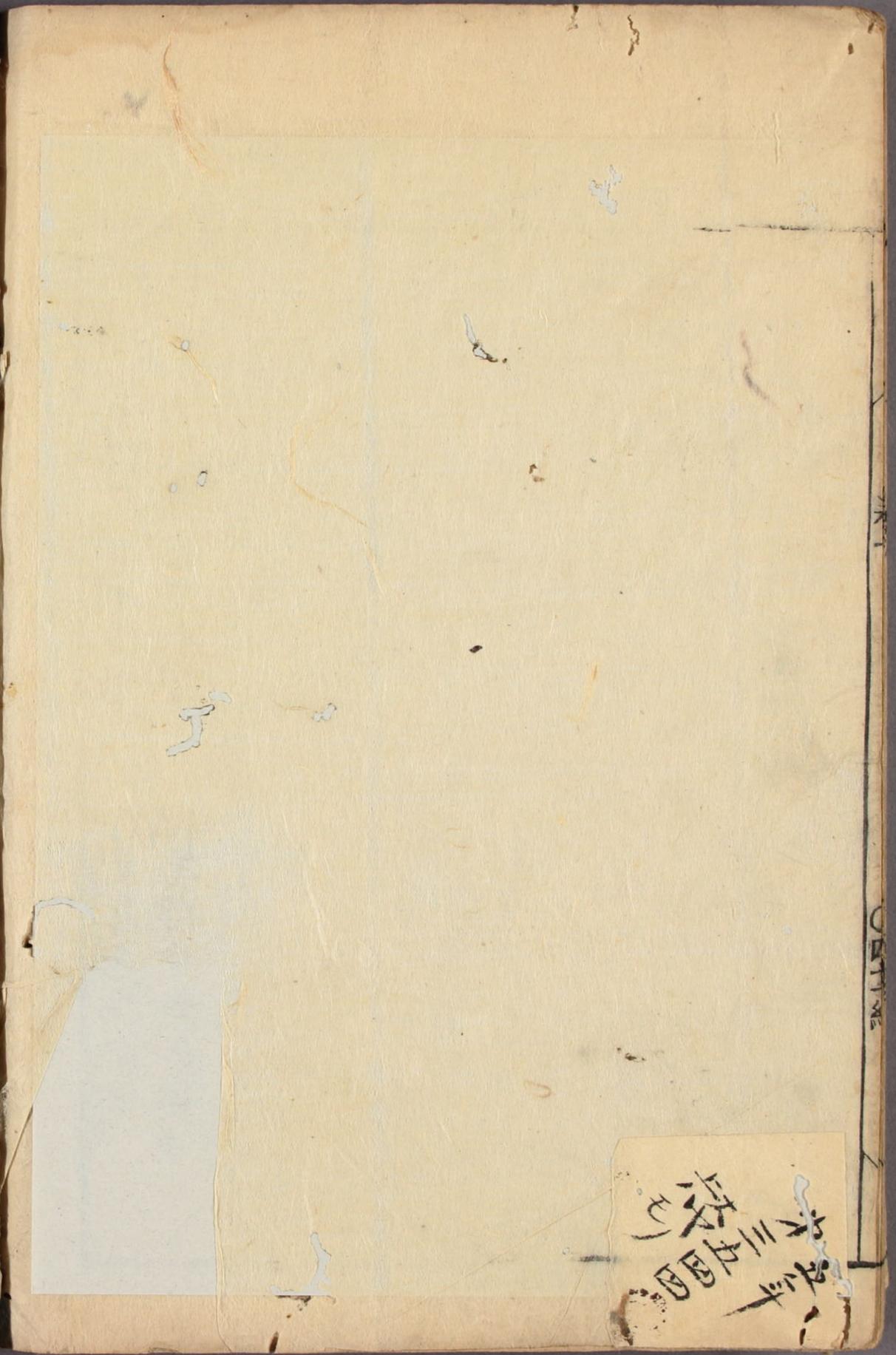
○古今集錄別... 海乃さねが流くへゆあそんてゆり

○古今集錄別... 海乃さねが流くへゆあそんてゆり

○古今集錄別... 海乃さねが流くへゆあそんてゆり

○古今集錄別... 海乃さねが流くへゆあそんてゆり

○古今集錄別... 海乃さねが流くへゆあそんてゆり



天
三
月
廿
四
日
收
入

